

「低炭素社会に向けた12の方策」より

Low Carbon Workstyle

オフィスと働き方

POINT 1

屋上緑化、太陽光発電、省エネ機器などを取り入れ、CO₂の排出を抑える工夫がされているビルやオフィスが普及しています。

POINT 2

電気やガスの使用量がひと目でわかるパネルが設置されて、CO₂の「見える化」が進んでいます。環境にやさしい働き方(ワークスタイル)が普及しています。

トッランナー機器のレンタル、最新の省エネ機器を利用

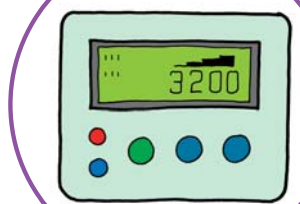
オフィスでは、リース契約の空調機や給湯器などを使っています。エネルギーの使用量に応じた課金システムが採用されています。リース会社により、常に修理や部品交換、最新機器への更新が行われています。エネルギー費用の削減と、省CO₂が達成されています。

取引先と物流情報を共有

取引先との間で、モノの流れの情報を共有し、助け合うことで無駄な在庫・移動を抑えたスムーズな物流を実現させています。

スマートメータ、CO₂を常時観測

オフィスには、デジタル式の電気・ガスメータ(スマートメータ)が設置され、機器使用によるエネルギーやCO₂排出量を常時観測しています。



ゼロカーボン化、自然の恵みを取り込む

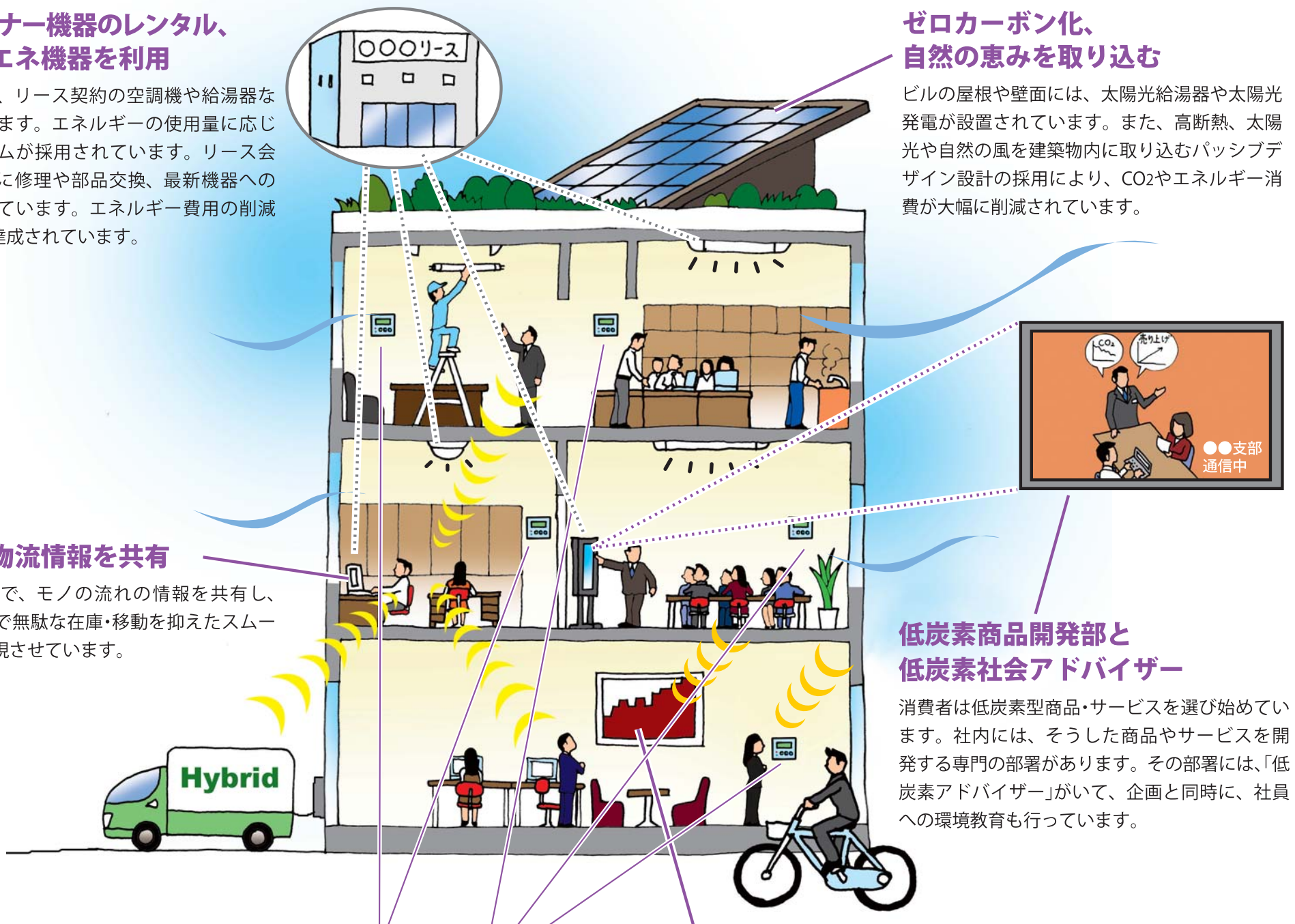
ビルの屋根や壁面には、太陽光給湯器や太陽光発電が設置されています。また、高断熱、太陽光や自然の風を建築物内に取り込むパッシブデザイン設計の採用により、CO₂やエネルギー消費が大幅に削減されています。

低炭素商品開発部と低炭素社会アドバイザー

消費者は低炭素型商品・サービスを選び始めています。社内には、そうした商品やサービスを開発する専門の部署があります。その部署には、「低炭素アドバイザー」がいて、企画と同時に、社員への環境教育も行っています。

LCSナビゲーションシステム、CO₂削減を自動制御

エネルギーデータが集約・分析され、行動パターンやワークスタイルにあわせて、省エネ・省CO₂に向けた適切なアドバイスが受けられるようになっています。同時に、空調や照明などを自動制御するLCSナビゲーションシステムが、オフィスに普及しています。



「低炭素社会に向けた12の方策」

「2050 日本低炭素社会」シナリオチーム [(独) 国立環境研究所・京都大学・立命館大学・みずほ情報総研(株)]
http://2050.nies.go.jp/20080522_press/index.htm



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6% www.team-6.jp